

ど、精神保健福祉士協会の全国大会が今月末に郡山でありまして、出張で参加してくる予定です。現場を踏まえながら、研究も同時に触れて学び吸収する機会にできたらと思っております。

*榎村裕子さん、工藤洋子さん

榎村裕子さんは2年前に東都大学から転出し、現在、西新井看護専門学校で小児看護と母性看護の担当者として勤務しています。5月16日に女子栄養大学で開かれた性教育関連講演会に参加していましたが、相変わらず元気で、仙台の東北福祉大学看護学科で在宅看護を担当している工藤さんも元気で働いていると話していました。

卒業生近況報告

橋本紀子

*小林由美さん

「先生がもう退官となるのですね。そんなに歳月が流れたのかと感慨深いものがあります」という小林さんは、昨年4月から、神奈川工科大学看護学部看護学科に勤務し、埼玉から通っているとのこと。看護教育に情熱をもって、取り組んでいるようです。

*三浦麻矢さん

「先生が今年度で退官されると伺い、月日が経過するのはあつという間だと改めて実感している」という三浦さんは、次のように近況を伝えています。

「大学院修了後、知的障害者更生施設(重度障害者の介助)の職員を経て、現在の職場である知的障害者授産施設(知的障害者の就労・経済的自立支援)に転職し、11年が経過しました。8年前より施設長に就任し、多忙な毎日を過ごしています。私の施設の役割は、障害を有する方が食品製造を通して経済的自立を促進することであるため、知的障害者支援の専門性だけでなく、商品開発、営業(施設の商品を取り引きして下さる所を開拓)、コスト管理等、福祉+経営感覚が職員に求められます。

私が入職した当初は、少ないアイテムを福祉関係者を対象としてバザー等で販売していましたが、現在ではやる気のある職員達のお蔭で、全国の食品コンテスト等での受賞9回、知的障害者施設としては全国で初めて自衛隊基地内の喫茶店入札や厚生労働省・農林水産省主催の当施設の販売会、地元B級グルメである横須賀海軍カレーの認定を受けるなど、福祉施設の域を超えた活動を評価して頂けるようになってきました。

沢山の方々にご支援を頂きながら、利用者に様々な社会体験の機会を与え、彼らの成長を導いています。職場が横須賀市となり東京や坂戸からは足が遠のいてしまいましたが、橋本先生に育てて頂いた恩を、知的障害者福祉の発展という形で還元したいと考えています。

今日、明日は横須賀市最大のイベントである、横須賀カレーフェスティバル(食のイベント)が開催されており、施設も販売に参加しています。朝3時起きし、カレーの製造・販売に向かっています。今の職場はこのようなイベントが多く、土日にも出勤している事が少なくありませんが、職員も協力的で感謝しています。

橋本先生をはじめ、研究室で一緒にさせて頂いた皆様とお目にかかれる日を楽しみにしております。近況報告まで」

*坂口由紀子さん

日本医療科学大学も4年目を迎えて新たな科目の講義や実習準備に追われる日々を過ごしております。(本号に論文執筆)

*森友里奈さん

精神保健福祉士での勤務が3年目になり、日々精神障害者の方への支援に悩み揺れながらも、何とか仕事を続けております。分野は異なりますが専門職には変わらないので、院での研究方法や知識が生かせる場面も多く、早くそれらを発揮できたらと思っている今日この頃です。ちょう